

一九六〇年に入り、細長い棒状の線が表現された人物が登場。人間の行動の背景系にある動機を検証する。

# 抽象化

東西ドイツの分断？  
冷戦？



《世界絵画》1961



《システム絵画》1961

一九六一年八月十三日、ベルリンの壁の建設が始まる。西ベルリンにバベリッツを訪ねた曜日だった。以後、反体制的な文化活動への取り締まりが厳しくなる。



ヴァインクラトはザイハネテクスや原始美術の影響の下、棒人間、幾何学的記号やシンボルの体系化を進め、一九六〇年代半ばには社会主義への建設的な貢献を目的とした独自の概念「シュタングルト」を生み出し、絵画のみならず幅広く展開した。しかし、作品自体は西側の抽象絵画からの影響を疑われ、反体制的とみなされた。

《独自の表意文字》



《シュタングルト》1968



シュタングルトを説明する本



日用品を用いた図物製

《シュタングルト-モデル》1973

「Standard」は、ドイツ語を「標準、基準」を意味する「Standard」と同義語を意味する「Standarder」の造語。

詩と音楽で官僚主義的な体制を批判するが、オルフェリアマンと出会い魅了される。



一九六五年、ドレスデンのプーシキンハウスでの展覧会に参加。抽象的な世界絵画やシステム絵画ではなく、肖像画などを出品し、即座にV.B.K.(東ドイツ芸術家団体の会員候補に選ばれた)。

東ドイツでアーティストとして仕事をするためにはV.B.Kの会員になる必要があった。ヴァインクラトは一九六九年に入会を拒否され、非公式の芸術活動を続けることになる。



《反-冷たい絵画》1961

バベリッツを介して知り合った画商のミヒャエルヴァグネルは、一九六八年のケルンのハルゲ画廊での個展を皮切りに、ヴァインクラトの作品を西側で積極的に紹介し始める。



ワグネル ミヒャエル (1959-1995)



西側への作品流通に準備

ヴァインクラトは、氷河期研究を知らず、地質学者アルフレッド・ペンクにちなみ、A.R.ペンクと名乗ることになった。ペンクは西側で展示された自分の作品を見ることはなかった。

抽象と具象、さらに両者を組み合わせて構成される画面も。



《シュタングルト 1977》1973



《T.M.》1974

一九七一年、ドレスデンで芸術家集団「リュッケ」を結成し、絵画、映画、音楽を共同制作し、芸術の社会主義的可能性を見い出そうとした。



《リュッケ》1971

《みんな川原番に描く》

リュッケ「Lyucke」は、ドイツ語で「透き間、空白」を意味し、一九七五年にドレスデンで結成されたワグネル、リュッケにちなみ名付けられた。